

# 第 11 期 第 4 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】 令和 2 年(2020 年)1 月 27 日(月)10 時 00 分から 12 時 00 分まで

【場 所】 豊中市立中央公民館 1 階集会場

【出席委員】 渡辺委員 浅利委員 花嶋委員 下村委員 原田委員 長谷川委員 新開委員  
中澤委員 岡田委員 神保委員 吉田委員 澤村委員 大西委員  
(15 名中 13 名出席：有効に成立)

【傍 聴 者】 1 名

【事 務 局】 河本、勝井、吉村、永富、渡邊、内田、鈴木、射場、中村、藤田、吉島、岡本、  
北野、大道、溝口、池田、中川

【オブザーバー】 飯野、中村（豊中市伊丹市クリーンランド 再資源・搬入課）

## 1. 開会宣言（事務局）

## 2. 配付資料確認

第 11 期 第 4 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事次第

資料 1-1 第 3 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り

資料 1-2 ハッピー（8%）ごみ減量プラン平成 30 年度（2018 年度）事業等報告書 速報版

資料 2 第 11 期豊中市廃棄物減量等推進審議会意見答申

資料 3-1 ハッピー（8%）ごみ減量プラン平成 30 年度（2018 年度）事業等報告書 確定版

資料 3-2 ハッピー（8%）ごみ減量通信 vol2（案）

当日配付資料 第 19 回ごみ減量フォーラム案内チラシ  
地球温暖化防止イベント案内チラシ

当日差替え資料：資料 3-2

## 3. 出欠確認および署名委員指名

本日の会議は公開とする。傍聴希望者は 1 名である。委員 15 名の内、13 名が出席のため過半数に達しており、審議会規定第 6 条により本日の会議は有効に成立している。議事録署名委員については、新開委員と吉田委員に担当していただく。よろしく願います。

## 4. 審議

### 案件 1. 第 3 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返りについて

#### ○会長

それでは審議案件に入る。案件 1「第 3 回豊中市廃棄物減量等推進審議会における振り返り」について事務局から説明をお願いする。

#### ○事務局

（資料 1-1、1-2 に沿って説明）

**○会長**

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等あればお願いします。

————— 質問・意見等なし —————

**案件 2. 「一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について」に係る答申の報告について**

**○会長**

続いて案件 2 『一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について』に係る答申の報告について」事務局から説明をお願いします。

**○事務局**

(資料 2 に沿って説明)

**○会長**

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等あればお願いします。

————— 質問・意見等なし —————

**案件 3. 平成 30 年度（2018 年度）事業等報告書（確定版）（案）について**

**○会長**

続いて案件 3 「平成 30 年度（2018 年度）事業等報告書（確定版）（案）について」事務局から説明をお願いします。

**○事務局**

(資料 3-1、3-2 に沿って説明)

**○会長**

事務局からの説明について、ご質問・ご意見等あればお願いします。

**○委員**

今回のハッピーごみ減量通信は、(速報版と比べて) サイズが大きくなり字体が見やすい。また、とよなか環境 TV の QR コードが記載されてスマホをかざすと視聴できる仕組みになっている。とよなか環境 TV は、内容が短い時間で分かりやすく伝わるように作られており、評価できる。まだ再生回数が少ないことが課題だと思うので、さらに周知に努めてほしい。若い世代への発信力を活かし、カセットコンロや家庭用の高圧ガスボンベなどの事故を未然に防ぐための告知などにもどんどん活用してほしい。

**○委員**

家庭系ごみ 1 人 1 日当たりの量を 28g 削減するとあるが、28g がどのくらいの量なのかがわからない。かつこ書きなどで明確な具体例を示して欲しい。

## ○事務局

皆様に分かりやすく、身近にあるものをおかき書きで例示するなど、表現を工夫する。

## ○委員

これまでも同様の意見が出ていたと思うが、今回のごみ減量通信にも具体例の記載はなかった。具体例があれば、「これならできる」と取り組んでくれる人も増えると思う。

## ○委員

半年くらい家庭ごみの減量に取り組んでいるが、3 切り運動や雑がみの分別にしっかり取り組むなど、意識さえすればほとんどの家庭でごみ袋（大）を使用せずに済むと思う。あらゆる機会を利用して周知徹底し、一人ひとりの取組みへとつなげていくことが肝要である。

二点目に、プラスチックごみ対策について、豊中市として内外に発信できるような、特化した取組みを行ってほしい。

## ○委員

横浜市だったと思うが、飲料水の自販機を置かないようにするという話を聞いた。豊中市でもそのような取組みをしてはどうか。

紙類のリサイクルについても、時々広報誌などで周知してはどうか。

## ○委員

わが家ではミニのごみ袋を使用している。（小さいサイズがあることを）知らない方も多いのではないか。そういったアプローチからもごみの量を減らすことができると思う。

## ○会長

とよなか環境 TV の今後の見通し等について、市から何かあるか。

## ○事務局

これまで配信した内容は、ハッピーごみ減量通信に記載のとおりである。今いただいたご意見を参考にしながら、今後も企画を考えていきたい。

プラスチックごみ対策の取組み状況としては、2 月 29 日に「プラスチックの削減がつなぐ SDGs への道」をテーマに、第 19 回ごみ減量フォーラムを開催する予定である。また、ペットボトル飲料の販売をしない自動販売機を本庁舎に 1 台設置した。

## ○副会長

横浜市はプラスチックの資源循環アクションプログラムを策定し、マイボトルの普及などには取り組んでいるが、自販機撲滅ということまではしていないようである。東京農工大学などでは自販機をなくしたりもしているが、結局周辺のコンビニエンスストアや自販機に移るだけということも聞いているので、しっかり周知啓発を行わないと効果を得るのは難しくなる。

## ○委員

紙パックなどのストローはどうか。先日クッキー製のストローの記事を見たが、企業も努力していると感じる。ストローを置かない店もあり、今後そういったお店が増えていくとよいと思う。

## ○委員

事業者の間でも脱プラスチックや食品ロスに対する意識は高まりつつあり、ストローの使用を止める小規模店舗も出てきている。大阪市内では、ベンチャー企業が喫茶店などで使うクッキー生地のコップを開発した。徐々に新しい技術やアイデアをかたちにしていこうという方向に進みつつあると感じている。

ハッピーごみ減量通信にもあるように、飲食店向け食品ロスガイドブックを配布していただいたところだが、飲食店以外でも、事業者の具体的な取組みとその効果をとよなか環境 TV など発信し、（商工会議所のような）事業者向け支援機関などのホームページ等にリンクを設定することによって、企業向けに周知を広めていくことができるのではないかと感じる。この1年で消費税の増税や最低賃金の引き上げ、事業系ごみの処理費用引き上げなど、企業にとってはコスト面で厳しい状況が続いている。ごみの量を減らせばコスト削減にもつながるので、市や専門家の力を借りながら中小企業向けにも情報提供していければ、ごみの減量につながっていくのではないかと感じた。

## ○会長

ユーチューブというのは新しい取組みで、地域のお店を取材することも効果的だと思う。今は市役所の職員が自主的に作成しており、職員の顔を出すこと自体の是非なども考える必要が出てくるかもしれないが、広報にこういった媒体を使うのは話題性があると思う。レジ袋や自販機の利用者などが後ろ指を指されるような社会的雰囲気を作るのにも役に立ちそうである。

## ○委員

大阪府ではマイボトルの持参を推進しているので、それと連動してハッピーごみ減量通信にもマイボトルの記載があると良いのではないかと感じる。街頭に給水スポットがあれば、マイボトルの持参推進にもつながると思うので、市でもそのような取組みを進めて欲しい。

## ○委員

コープ東豊中店では、無料で水を提供している。そういうお店が増えればよいと思う。

## ○委員

とよなか環境 TV は、豊中市の「やらなきゃいけない」と思っている人たちが作成したほうが訴える力のあるものになる。当社でも、ホームページは社長が細かく監修しているため、しっかりしたものになっている。専門業者に任せきりにはしないほうがよいと思う。

また、今（環境に配慮した製品に関して）色々なアイデアが出ているが、滋賀県では葦を使ったストローを作成したという話を聞いた。給食の牛乳に付いてくるストローを使用しない取組みなどもあり、そのような事例を集めてとよなか環境 TV で発信していけば、取組みが広がっていくと思うので、今後も積極的な情報発信をお願いしたい。

## ○委員

家でどのくらいプラスチックが使われているか調べてみたら、冷蔵庫やエアコンなど、至るところにプラスチックが使用されており、プラスチックなしでは生活が成り立たないことを再認識した。そのような状況で、マイバッグやマイボトルの持参推進だけで問題が解決に向かうものか、疑問に思っている。現在使用されているプラスチックは生分解性でないものがほとんどだと思うので、企業の方でも生分解性プラスチックを推進していく取組みを加速していただけたら少しは安心できる。

環境展では、海洋プラスチック問題をテーマに出展するとともに、紙とプラスチックの分別ゲームを行ったが、紙類の分別はまだまだであり、プラスチックも混同している人が見られた。今後もイベントや自治会など、身近なところへの情報発信を継続して行って欲しい。

## ○委員

あらゆる製品がプラスチック容器に入っている。消費者の努力には限界があるので、事業者もプラスチックの削減に向けて努力することが必要である。

## ○会長

肉を買うときにトレーなどを置いて帰るパックバック運動について、師である京都大学名誉教授の高月紘先生が第1巻の「ゴミック『廃貴物』」に書かれており、30年先取りをしておられた。

## ○委員

お店には悪いと思うが、荷物も増えるので、パック・トレー類は外して帰っている。

## ○副会長

捨ててしまうとリサイクルの道も閉ざされてしまうので、お肉などは、お店の人に裸で売って欲しいとお願いするのが一番よいと思う。

## ○委員

市民の努力でどうにもならない部分は、世の中の仕組み自体を変えていかないといけないと思う。

## ○委員

容器包装におけるプラスチックの割合が高いのはその通りであり、取組み姿勢は事業者によっても温度差がある。卵のパックや惣菜の容器なども紙製のものが見られるようにはなっているが、(紙製容器は)コストが非常にかかるため、進みにくいのが実情である。事業者の努力や、新しい素材の開発なども当然必要ではあるが、経済的には、事業者は消費者に選ばれなければ淘汰されていく。多少コストがかかっても環境にやさしい取組みをしている事業者を、消費者が積極的に選ぶということが、事業者の置かれている立場を少しずつ変化させていく行動になるということもご理解いただければと思う。

## ○委員

プラスチック全体が悪いというわけではない。使い捨てをしてごみになっていることが問題であり、特にスーパーで無尽蔵に配っていたレジ袋が大きな課題になったので、まずそういったところから取

り組むことになった。その点では豊中市が北摂7市3町で協働し、全国的にも先進的な取組みとしてレジ袋の有料化に踏み切ったことは評価できる。この7月には、国の施策としてほとんどのスーパーやコンビニエンスストアなどで実施される予定であり、環境にやさしい取組みをしなければならない時代がすでに来ている。

また衛生上の理由から、プラスチック製のトレーやフィルムで包装された商品を選択するという流れがまだまだある。果物や野菜など、包装無しで売っている商品もあるが、不衛生であると感じる人もおり、難しい点である。事業者ができることとして、ペットボトル、トレー、牛乳パックや透明の卵のパックなどの店頭回収を行い、リサイクルに回すという取組みを行っているところである。

環境問題に対して意識的に取り組んでいる方の見方は理解しつつも、企業としてはそれ以外の大多数の方の見方も考慮しなければならない立場にあるという点をご理解いただきたい。

## ○委員

海洋プラスチック問題に対して、ポイ捨てや不法投棄の防止対策、またその問題を環境学習に取り上げるなど行っているが、プラスチックごみそのものを削減する市の取組み状況はどうか。あわせて関西広域連合が設置している琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォームにおける取組み状況や、今後の取組み予定などについても伺いたい。

## ○事務局

プラスチックごみ対策の一環として、次年度、地域清掃用ごみ袋のバイオマス化を検討しており、予算要求しているところである。また関西広域連合においては、事業者、府、国などと情報共有しながら取組みを進めていく予定である。

## ○会長

生分解性プラスチックについては、分解はするがCO2まで分解されているかどうかははっきり分からない。生分解性というイメージは良いが、中途半端に分散するだけになる可能性があり、注意が必要である。プラスチックを散乱させないことが重要だと考える。

## 案件 4. その他について

### ○会長

続いて案件4「その他について」事務局から説明をお願いします。

### ○事務局

(当日配付資料に沿って説明)

### ○委員

ハッピーごみ減量通信について、パンフレットやチラシなどのデザインは、チラシ立てに入った時に必要事項が見えるように考えられているようなので、二つ折りで配られるのであれば、そうしたときにとよなか環境TVの記事がうまく見えるようにした方が、より広報につながると思う。「見てみよう」という行動につながるような、関心のない方にも届くような配り方をしていただきたい。

## ○事務局

ハッピーごみ減量通信については3月に来年度のごみカレンダーと一緒にタブロイド判で全戸配布する。ごみカレンダーが外側になるので、若干見えにくい状況にはなるが、二つ折りで配布するので、デザインは工夫する。

## ○委員

色使いがよいので、関心を持ってもらえるのではないかな。

## ○会長

その他、事務局から何かあるか。

## ○事務局

本日、第11期最終の審議会となるので、事務局を代表して環境部長の河本から一言ご挨拶させていただきます。

## ○事務局

委員の皆様におかれましては、本市の廃棄物行政、市政全般に亘りまして格別のご理解とご支援をいただいております、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。本日、平成30年度の事業等報告書確定版の案を始め、様々な貴重なご意見を頂戴し感謝している。いただいたご意見等を踏まえ、事務局で再度内容を精査する。

委員の皆様にはこの2年間に亘り専門的見地や市民活動、日頃の事業活動などの観点からご議論いただき、貴重なご意見をいただいたことを感謝申し上げます。1年目には「第3次ごみ減量計画」の総括について、2年目となる今年度は「第4次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について、ご議論と貴重なご意見をいただいた。令和元年10月には会長から市長へ答申をいただいたところである。

本市としても、国や民間企業を含む社会全体としても、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現をめざし、すべての行政課題においてSDGsの観点から取組みを進めていこうとしている。廃棄物行政においては、廃棄物問題の解決、ごみの減量、循環型社会の構築ということが、まさに持続可能な社会の実現に向けて求められていることである。今日も非常にたくさんのご意見をいただいたが、原点はそこにあるのではないかな。企業側からもご指摘をいただいたが、コスト面だけを考えると持続可能な社会の実現は難しくなるように思う。コストを度外視することは不可能だが、多少コストがかかっても将来の世代において社会や地球が持続していけるような社会づくりをするという観点で何事も進めていかなければいけないと認識しているので、委員の皆様には、廃棄物行政に限らずすべての行政課題、まちづくり、社会づくりにおいて今後とも貴重なご意見をいただければと思う。引き続きご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

## ○会長

委員の皆様には活発なご議論をいただき、市にとっても刺激があったと思う。市の環境行政に対してだけでなく、常に社会にとって良いこととは何かという観点で考えてくださっていることに感謝申し上げます、閉会とする。

## ○事務局

今期審議会委員の皆様の任期は、令和2年2月の末までである。次期、第12期審議会の委員委嘱等については個別に調整させていただくのでよろしく願います。

## 5. 閉会